

いまだに感動します。
磐梯山の四季の美しさには

移住経験者 Interview _____ vol.1



I ターン就農者

安藤 剛さん
ごう

Profile 1975年 東京都生まれ

学生時代から、裏磐梯のスキー場でインストラクターとして働く。この地の豊かな自然に魅せられ、I ターンを決意した。春から秋は農業、冬はスキー場でパトロール隊員として働く。趣味はフットサル。

19歳のころから、裏磐梯のスキー場でインストラクターをしていたという安藤さんは、磐梯山周辺エリアの魅力にとりつかれた1人。

平成16年、猪苗代にIターン。スキースクール時代の同僚と3人で、春から秋は農業、冬はスキー場で働くという生活を始めた。

「町の新規就農者第1号ということで、町役場も手探り状態。わたしたちも農業の詳しい知識がない状態での出発だったので、いろいろと苦労をしました」と当時を振り返る。

福島県会津農林事務所の普及員に、宇川クリーンファームの宇川進さんを紹介され、宇川さんの指導を受けながら、町のブランド品である磐梯トマトの栽培を始めた。

「ハウスの場所が翁島地区にあるので、磐梯山を正面から見ながら仕事をしています。これは気分がいいですね。たまに県内のほかの産地を見に行くのですが磐梯山のようなきれいな山はないと思います」と語る。

現在は5反分の磐梯トマトを栽培し、農業は順調だ。私生活でも、1月に長男の洋輝くんが誕生。猪苗代の自然の中で伸び伸びと育ててほしいと願っている。

この町に住んで初めて迎えた春、磐梯山の緑の美しさに感動したという安藤さん。

「あらためて考えると、365日、毎日磐梯山を見て生活しています。でも、四季折々の美しさに、いまだに感動するんです。これは、ずっと地元で暮らしている人にはわからない感覚かもしれません」と話す。

これからの目標は、友人をたくさん増やすことと、一軒家を建てることだという安藤さん。「この恵まれた土地で、いつまでも暮らしていきたい」と笑顔で話した。

以上、2010-8広報猪苗代（平成22年8月号）より転載。現在、安藤さんは平成24年に夢であったマイホームを取得。猪苗代町で充実した毎日をお過ごしです。

【平成27年3月 商工観光課】